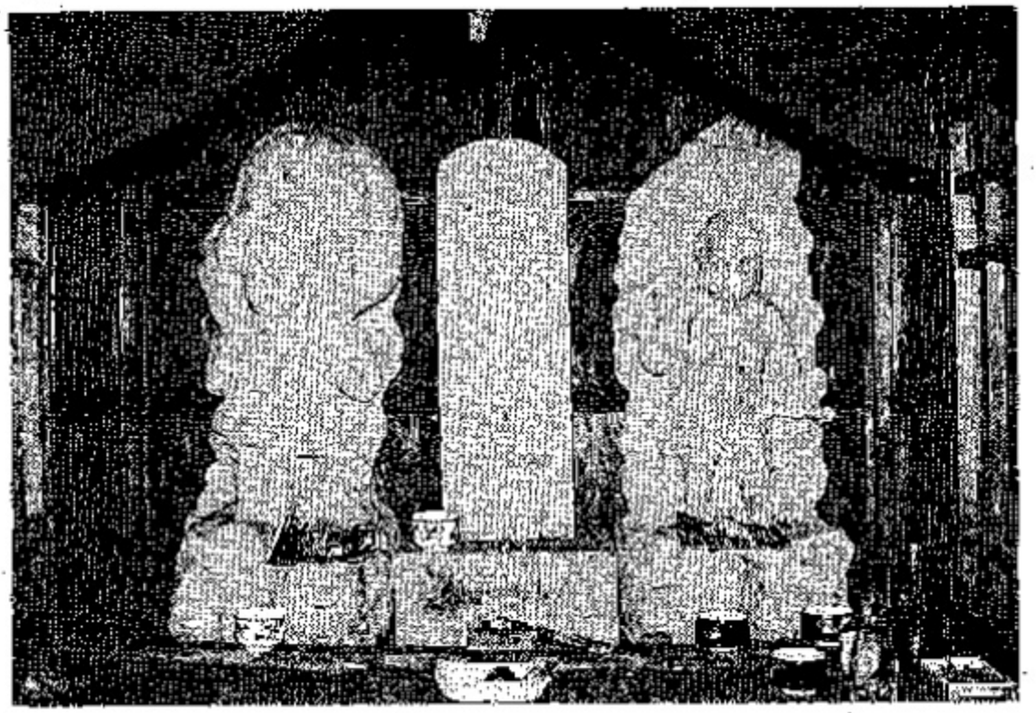
上鷺野高橋には国道に添って一むらの古木の原野があり、その中に二間四面社の堂が建っている。これは俗に雨の又三郎、風の又三郎ともよばれて近郷の人々に深く信奉されている。



風の又三郎　鷺野字高橋の風神雷神社

社殿には雨の神・風の神・火の神の三体の石像が安置されている。雨・火・風など天然の現像を神として祀ったことは遠い原始信仰から続くものかも知れない。雨と風が大きく稲作の豊凶にかかわることから、作神様とも考えられている。ある極旱天の年、雨の又三郎に雨を乞い、社前に番楽芝居をたてて住民が笛、太鼓ではやし立て、今にも幕を開こうとしたとき、一天にわかに曇り、どしゃ降りとなって夜昼七日七夜降り続いたと伝えられている。このことから特に雨乞い祈願が多く、大正の中ごろも旱天の年、雨の又三郎の威力で枯れかかった稲田を救い豊作まで導き、部落の人々は感謝して二間四面社を建立。その中に安置したともされている。この地に鷺野小学校のグランドがあったころは、きまって運動会の日は少しの雨が降ったといい、また反対に遠足の前日は多くのテルテル坊主が木の枝に下げて祈られ、決して雨の降ることがなかったとも伝えられている。